



Photo & Text : **Takaji Ochi**  
Special thanks : **D.O.**

シミラン諸島やリチュエロック同様に  
タイのダイビングエリアとして人気が高いのが  
プーケットからデイトリップで潜りに行ける  
ピピ島のビダノック、ビダノイや  
ナショナルマリンパーク内のシャークポイント  
キングクルーザーなどのポイントだ。

# タイ・プーケットからの デイトリップ・ダイビング

夕焼けに染まる。デイトリップのダイビングボートが  
出港する。プーケットのチャロヘイ



シミランクルーズと比較して  
華やかさに欠ける印象ではあるが  
魚影の濃さは圧倒されるものがある。  
その海の魅力をダイバーに知ってもらおうと  
情熱を傾けるガイドがいる。



左、デイトリップポイントの一つ、ラチャヤイ島にある高級リゾート  
右、ピピ島は急速な復活を遂げ、今では多くの観光客でにぎわっている

**PART. 1**

**DAY TRIP DIVING FROM PHUKET PART. 1**  
Web-lue 2007. Autumn

Information Link  関連情報HPへ  
<http://www.dophuket.com/index.htm>

ピピ島は、ピピドン島とピピレイ島の2島からなる。切り立った断崖絶壁の景観が、強烈な印象を脳裏に植え付ける。その絶壁に守られるように、内湾が存在していて、外界から閉ざされ、海賊の隠れ家のようにつな霧囲気を醸し出している。エメラルドグリーンの海の色も、その場所の神秘性に拍車をかける。レオナルド・デカプリオが主演した映画「ザ・ビーチ」の撮影地として有名になったのも、つい最近のように感じるのだが、あの映画もすでに7年前のものだ。

しかし、おそらく独り、あるいは自分たちの乗船したボートしかそこに存在しないのであれば、もっとワクワクした心境にもなるのだろうが、実際には観光ボートが頻繁にこの内海へと行き来していて、ちょっと興奮させられるのも事実。まあ、ピークの時間帯に来てしまったのも問題だったのかもしれないけれど。

2004年末に襲った津波の被害の印象もすでに過去のものとなり、今では多くの観光客が何事も無かったかのように、この島を訪れていたわけだ。

ピピ島周辺でメインのダイビングポイント、ピダノック、ピダノイは、ピピ島の南に位置した2つの岩礁の周囲を潜る。プーケット近郊のポイントとしては、ジンベエザメ遭遇率が一番高いポイントということだが、僕はまだ一度もここでジンベエに遭遇したことはない。まあ、まだ数本しか潜っていないから当然と言えば当然なのだけだ。ただし、「レパードシャークの遭遇率は90%」とかなり高い確率を誇っていて、僕も何度か遭遇している。

## 観光ボートがひしめく内湾のダイビングポイントへ



映画「ザ・ビーチ」の撮影舞台として人気の高いピピ島には、沢山の観光ボートがやってくる。



左、大型の観光船も、沢山のバックパッカーたちを乗せて、入り江の中に姿を見せる中、ダイビングポイントへ向かい途中に、ガイドがフリーフィングを行う左、ラチャヤイ島の桟橋に停泊する、沢山のスピードボート



タイ・プーケットからの デイトリップ・ダイビング  
**DAY TRIP DIVING FROM PHUKET PART.1**  
Web-lue 2007. Autumn



01



08



09



10



# 生命あふれる豊かの海



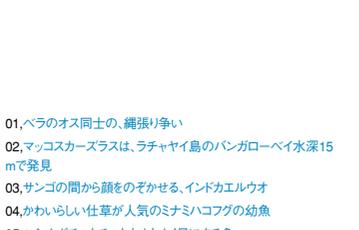
02



03



04



05



06



07



13

- 01,ベラのオス同士の、縄張り争い
- 02,マッコスカーズラスは、ラチャヤイ島のバンガローベイ水深15mで発見
- 03,サンゴの間から顔をのぞかせる、インドカエルウオ
- 04,かわいらしい仕草が人気のミナミハコグの幼魚
- 05,ハシナガチョウチョウウオもよく目にする魚
- 06,黒と黄色のツートンカラーがかわいい、キハソク
- 07,見る角度によって、体色の変化が見られるクジャクスズメダイ
- 08,ポイントによっては、ハードコーラルのサンゴが群生している。ラチャヤイ島で
- 09,これもラチャヤイ島の浅瀬のサンゴ
- 10,アンダマン海の固有種、トマトアネモネフィッシュの幼魚
- 11,ウミガメなども姿を見せてくれる
- 12,ドクマイ島のドロップオフには、テンジクダイが群れる
- 13,スカテンジクダイの群生も、この海のシーズ的な魅力のひとつだ

タイ・プーケットからの デイトリップ・ダイビング  
**DAY TRIP DIVING FROM PHUKET PART.1**  
 Web-lue 2007. Autumn



ラチャヤイ島のポイントに沈められた象のモニュメント

プーケットから南東25kmに位置する海域は、1992年にタイ政府によって、生態系保護を目的とした国立海洋公園（ナショナルマリンパーク）に認定された。そこにあるのが、シャークポイント、アネモネリーフ、キングクルーザーなどの人気ポイント。個人的にも、プーケット・デイトリップエリアの中でもこの3箇所がバリエーションに富んでいて、一番好きなポイントでもある。

キングクルーザーは、1997年5月4日に、アネモネリーフに衝突したカタマラン客船が水深32mの海底に沈み、全長87m、全幅25mの巨大な漁礁になっ

た。トップデッキの船後方部分には、まるで黄色い運河のようにキンセンフエダイが群れを作り、巨大な船を覆いつくす。

ダイバーがその群れに突っ込むと、ブラックホールのようにそこだけ空間ができて、ダイバーを飲み込むと、また入り口が黄色い群れで閉ざされるシーンは圧巻だ。

周囲には、ギンガメアジ、グルクマ、イエローテールバラクーダなどが群れ、海底部分はハナハゼSP、ゴールドスベックジョーフィッシュ、フタホシタカノハハゼ、オニハゼ、オーロラパートナーゴビー、ブラックシュリ

ンプゴビーなどのハゼが多く見られる。ワイドもマクロも楽しめる要素が満載のポイントだ。数年前には、ロウニンアジの群れがいついていた時期もあったが、今は残念ながらいない。今回の取材では、海底でインディアンオーシャンウォークマンと呼ばれるヒメオニオコゼのインド洋バージョンを発見した。

今回は、ピビエリアと、キングクルーザーをメインで紹介したが、次回はプーケットからデイトリップで行くそのほかのポイントについても照会していきたいと思う。

- 01.船を覆いつくすように群れるキンセンフエダイの群れ
- 02.ピビ島のダイブサイト、ピダノイ島の異景
- 03.ソフトコーラルに群れるスズメダイ
- 04.シャークポイントはカラフルなソフトコーラルが群生する
- 05.キングクルーザー内部を探検
- 06.キングクルーザーの外観を楽しむ
- 07.バンガローベいに沈められている、津波のモニュメント

## 魅惑の国立海洋公園を潜る



タイ・プーケットからの デイトリップ・ダイビング  
**DAY TRIP DIVING FROM PHUKET PART.1**  
Web-lue 2007. Autumn

Information Link 関連情報HPへ  
<http://www.dophuket.com/index.htm>

取材と一緒に潜った、D.O.のオーナーガイドの藤中幸司は、苦悩していた。その理由は、同じタイの海でありながら、クルーズで行くシミラン諸島やリチュエーロックに比べて、全てにおいて、彼自身が見劣りを感じてしまっていたからだ。「この海を多くの人に知ってもらいたい。しかし、どうすればいいのか、どのようにこの海の魅力を伝えればいいのか」。

以前、あるディスティネーション(タイではない)に取材に行ったときに、「この海、つまらないでしょ」とその海で働くガイドからそっけなく言われたことがある。海を紹介するガイドが、自分の働く海に魅力を感じられていないこと。それ自体大きな問題だと感じた。藤

## 期待すべき ガイドの実力が この海を生かすのだ



**D.O.**

日本人オーナーガイドの藤中氏を中心に、シミランクルーズエリアから、プーケットデイトリップエリアまで、アンダマン海のダイブスポット全てを網羅し、案内できるスタッフがそろそろ、アットホームなダイビングサービス。藤中氏のとどまるところを知らない爆裂トークは必見?



中には決してそんな風に考えているわけではない。ただ、自信が持てないでいるだけだった。その海を生かすも殺すも、ガイド次第。僕は常にそう思っているし、多くのダイバーもそのことを認識しているはずだ。僕が願うことは「日々ドラマを創って欲しいということ。どんな海であろうと、ドラマは創れる。そしてそれを行うのは、海そのものだけでなく、その海を紹介するガイドの手によって成されるものだ。

彼にはそれができるだけキャラクターを備えている。ちょっとしゃべりすぎだけど。だから、しばらく付き合ってみることにした。プーケットからのデイトリップエリアの海でどれだけの楽しみを、彼らが見出してくれるのか。今から楽しみにしている。

01、ピビ島の内湾に停泊したボートの上で、次のダイビングポイントはどこにしようかと思索中の藤中氏

02、プーケットのデイトリップは、乗り合いが中心。チャロンベには、連日多くのダイバーが姿を見せる

03、スピードボートをチャーターすれば、ピビ島へ上陸してランドツアーも楽しめる

タイ・プーケットからの デイトリップ・ダイビング  
**DAY TRIP DIVING FROM PHUKET PART.1**  
Web-lue 2007. Autumn

Information Link  <http://www.dophuket.com/index.htm>